

CLUSTERPRO[®] X *for Windows*

ソフトウェア構築ガイド
(DataSpider Servista)

2026.6.8
第6版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2012/08/10	PPガイドより分冊し、新規作成
2	2019/02/28	「動作環境」を更新 「ライセンス」に仮想化環境における注意事項を追加 「注意事項」にリポジトリDB有りのクラスタ構成に関する記載を追加
3	2023/11/27	CLUSTERPRO X 5.1、DataSpider Servista 4.4 SP2に対応
4	2025/06/23	CLUSTERPRO X 5.3、DataSpider Servista 4.5 SP1に対応
5	2026/02/18	CLUSTERPRO X 5.3.1、DataSpider Servista 5.0.0に対応
6	2026/06/08	CLUSTERPRO X 6.0、DataSpider Servista 5.0.1に対応

© Copyright NEC Corporation 2026. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

製品ご購入後にアプリケーション観点でのお問い合わせをするには、アプリケーションの保守契約を締結する必要があります。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

HULFT、その他HULFT関連製品は、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標または商標です。

DataSpider Servistaは、株式会社セゾンテクノロジーの登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。

目次

はじめに	i
対象読者と目的	i
適用範囲	i
CLUSTERPRO マニュアル体系	ii
本書の表記規則	iii
最新情報の入手先	iv
お問い合わせについて	iv
第 1 章 DataSpider Servista	1
機能概要	1
機能範囲	2
動作環境	2
ライセンス	3
インストール手順	4
サービスリソースの設定	6
死活確認用スクリプトの作成	11
死活確認用スクリプトの登録	16
注意事項	20

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® ソフトウェア構築ガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここで紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

- CLUSTERPRO X 6.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 5.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 4.0 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.3 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.2 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.1 for Windows
- CLUSTERPRO X 3.0 for Windows

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の4つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』(Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』(Install and Configuration Guide)

CLUSTERPROを使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPROを使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPROを使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPROのインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』(Reference Guide)

管理者、およびCLUSTERPROを使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』(Maintenance Guide)

管理者、およびCLUSTERPROを使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPROのメンテナンス関連情報を記載します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
モノスペースフォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

お問い合わせについて

本書のDataSpider Servista製品に関する記載内容のお問い合わせには、原則としてCLUSTERPROの保守契約とDataSpider Servistaの保守契約が必要です。

本書に関するご質問は、以下の窓口までお問い合わせください。

- ・ HULFT技術サポート窓口 (hulft@mlsig.jp.nec.com)

第 1 章 DataSpider Servista

機能概要

DataSpider Servistaは、データ連携のためのミドルウェアです。
種類の異なるシステムやアプリケーション間のデータ連携を、ノーコードで開発できます。
プログラミングに関する専門知識がなくても、簡単にサービスを作成できる操作環境を備えています。
また、様々なデータソースと接続可能なアダプタ群や、サービスの高速実行を可能にする実行環境により、業務の自動化を実現します。

CLUSTERPROの監視対象として、以下を設定してください。

- ① Windowsサービスとして登録したDataSpiderServer
- ② DataSpider Servistaで作成した死活確認用スクリプト

リポジトリDBを使用する構成の場合は、上記に加えて以下を監視対象として設定してください。

- ③ リポジトリDBとして使用するデータベースのWindowsサービス

- ※ DataSpiderServer はデータ連携サーバです。DataSpider Servista の中核コンポーネントであり、外部システムとの連携、実行管理、ログ管理などを行います。
本書では、Windows サービスとして登録したDataSpiderServerを、CLUSTERPRO のサービスリソースとして登録し、監視対象として扱います。
- ※ リポジトリ DB は、DataSpider Servista のサービス、ユーザ情報、各種設定データなどを格納するデータベースです。リポジトリ DB を使用する構成の場合は、リポジトリ DB として使用するデータベースのWindows サービスも CLUSTERPRO の監視対象として扱います。

機能範囲

DataSpider Servistaは、クラスタ環境においてシングルサーバと同等に動作します。
クラスタ環境での機能制限は特にありません。

DataSpider Servistaのフェイルオーバーは再起動と同等の動作です。
フェイルオーバー前の運用状態は引き継がれません。

動作環境

DataSpiderServerがCLUSTERPROとの組み合わせで稼働するOSは以下のとおりです。

対象OS

- Windows Server 2025 / Windows Server 2022 / Windows Server 2019

動作確認済みの構成は以下のとおりです。

Windows

- Windows Server 2022
- CLUSTERPRO X 6.0 for Windows
- DataSpider Servista 5.0.1

DataSpider Studio (開発用DataSpiderクライアント)が稼働するOS、Webブラウザは以下のとおりです。

対象OS

- Windows Server 2025 / Windows Server 2022 / Windows Server 2019 /
Windows Server 2016 / Windows 11

サポートWebブラウザ

- Microsoft Edge 136以降
- Firefox 138以降
- Google Chrome 136以降

対応OSと必須ソフトウェアの詳細については、以下の最新情報をご確認ください。

<https://www.saison-technology.com/service/product/lineup/dataspider/os/>

ライセンス

基本的なカウント方法

DataSpider Servistaのライセンスは、サーバ1台ごとにCPUコア数でカウントします。

- ・ カウント対象は物理コアです。ハイパースレッディングなどによる論理コアはカウント対象外です。
- ・ 仮想化環境で利用する場合は、DataSpider ServistaをインストールするゲストOSに割り当てたコア数でカウントします。

冗長システムを構築する場合のライセンス

冗長システムを構築する場合、予備機の待機状態(ホットバックアップ/コールドスタンバイ)によって必要なライセンスが決まります。

ホットバックアップ構成

- ・ DataSpiderServerを起動した状態で、予備機が待機する場合です。
- ・ 予備機にDataSpider Servistaの「ホットバックアップライセンス」が必要です。
 - アダプタ: 本番機と同数・同額のアダプタが必要です。
 - サーバライセンス: 本番機ではなく、予備機のコア数に応じたライセンス数が必要です。

コールドスタンバイ構成

- ・ DataSpiderServerを停止した状態で、予備機が待機する場合です。
- ・ コールドスタンバイの場合は、予備機のライセンスは不要です。

待機方式	予備機の待機状態	予備機のライセンス
ホットバックアップ	DataSpiderServer起動	ホットバックアップライセンスが必要です。 ・アダプタ: 本番機と同数・同額 ・コア数: 予備機の構成に従う
コールドスタンバイ	DataSpiderServer停止	不要

本ガイドに記載した構成のライセンス

本ガイドに記載した構成(ミラーディスク型/共有ディスク型)は、DataSpiderServerを2台同時に起動しないため、コールドスタンバイ構成として扱います。

そのため、本番機のライセンスのみが必要です。予備機のライセンスは不要です。

お問い合わせ

詳細については、最新のライセンスポリシーをご参照いただくか、HULFT技術サポート窓口までお問い合わせください。

インストール手順

クラスタシステムにおけるDataSpiderServerのインストール手順は、配置先ディスクの種類(ミラーディスク／共有ディスク)、リポジトリDBの利用有無で決まります。

本手順では、DataSpiderServerをミラーディスク上に配置する「ミラーディスク型」と、共有ディスク上に配置する「共有ディスク型」の2種類の配置について、リポジトリDBの有無を含めて、それぞれのインストール手順を説明します。

インストールの前提条件として、CLUSTERPROのインストールおよび基本設定、ネットワーク設定、ミラーディスクまたは共有ディスクの設定が完了しているものとします。

また、リポジトリDBを使用する構成の場合は、リポジトリDB用データベースを事前に準備してください。

ミラーディスク型

ミラーディスク型は、現用系／待機系それぞれのサーバのデータパーティション上に、DataSpiderServer、リポジトリDB(リポジトリDBを使用する場合)を配置します。

1. CLUSTERPROの設定
DataSpiderServerを制御するためのフェイルオーバーグループを一つ作成し、次のリソースを登録してください。
 - ・ ミラーディスクリソース
 - ・ フローティングIPリソース
2. リポジトリDB用データベースの用意(リポジトリDBを使用する場合)
リポジトリDBは、ミラーディスクのデータパーティション上にデータベースを作成してください。
※データベースのクラスタ構築手順は、CLUSTERPROのソフトウェア構築ガイドを参照してください。
3. DataSpider Servistaのインストール
DataSpiderServerをWindowsサービスとして登録する必要があります。
両方のサーバにDataSpiderServerをWindowsサービスとして登録するために、現用系／待機系それぞれのサーバからミラーディスクの同じフォルダにDataSpiderServerをインストールしてください。
※ インストール方法については、DataSpider Servista本体に付属のインストールガイドを参照してください。
4. CLUSTERPROへのDataSpiderServerの設定
1. で作成したフェイルオーバーグループに、Windowsサービスとして登録したDataSpiderServerを起動するためのサービスリソースを追加します。
サービスリソースの追加方法については、後述の「サービスリソースの設定」を参照してください。

以降は、死活確認用スクリプトを使用して、DataSpiderServerを監視する場合に必要な手順です。

5. 死活確認用スクリプトの作成
DataSpider Servistaで死活確認用スクリプトを作成します。
死活確認用スクリプトの作成方法については、後述の「死活確認用スクリプトの作成」を参照してください。
6. CLUSTERPROへの死活確認用スクリプトの登録
前項で作成した死活確認用スクリプトを指定して、CLUSTERPROのカスタムモニタリソースを登録します。
具体的な手順については、後述の「死活確認用スクリプトの登録」を参照してください。

共有ディスク型

共有ディスク型は、現用系／待機系それぞれのサーバから接続する共有ディスク上に、DataSpiderServer、リポジトリDB(リポジトリDBを使用する場合)を配置します。

1. CLUSTERPROの設定

DataSpiderServerを制御するためのフェイルオーバーグループを一つ作成し、次のリソースを登録してください。

- ・ ディスクリソース
- ・ フローティングIPリソース

以降は、前項「ミラーディスク型」のインストール手順2～6を参照し、「ミラーディスク」を「共有ディスク」と読み替えた手順でインストールを行ってください。

サービスリソースの設定

クラスタの起動・停止およびフェイルオーバーの際にDataSpiderServerを適切に起動・停止させるために、以下の手順で、サービスリソースを設定します。

1. Cluster WebUIを起動します。
2. 設定モードに変更します。
3. フェイルオーバーグループ(例:failover1)の右にある[+]マークをクリックします。

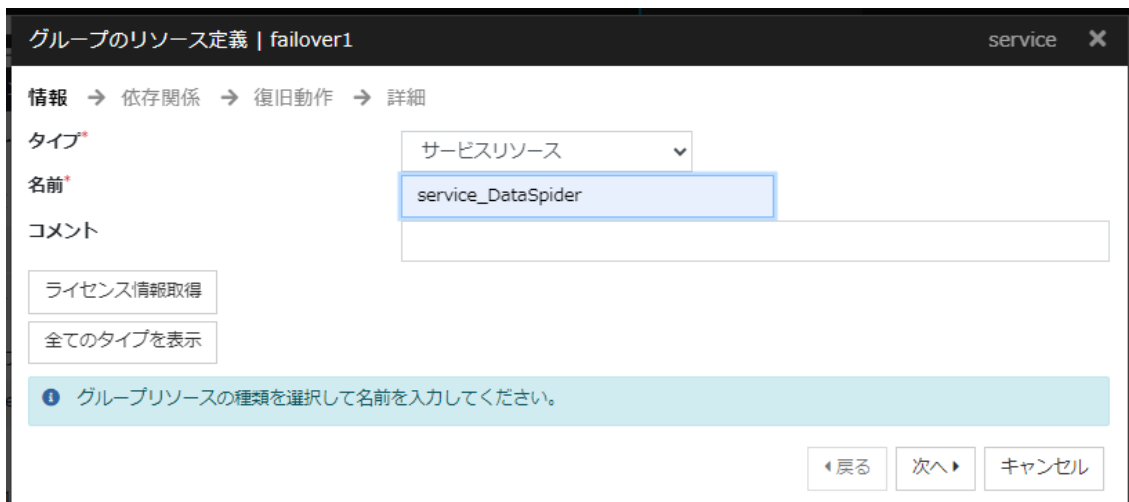


4. [グループのリソース定義-情報]画面が表示されます。

[タイプ]と[名前]を設定し、[次へ]をクリックします。

タイプ: サービスリソース

名前: (例)service_DataSpider



5. [グループのリソース定義-依存関係]画面が表示されます。

●リポジトリDB有りの場合

[既定の依存関係に従う]のチェックを外し、依存するリソースを設定し、[次へ]をクリックします。
利用可能なリソースを選択し、[追加]をクリックして依存するリソースを設定します。

※ 依存関係の設定理由については、後述の「注意事項」の章を参照してください。

例) service_pgsql: リポジトリDBのサービスリソース、fip1: フローティングIPリソース、
md1: ミラーディスクリソース(共有ディスク型の場合はディスクリソース)

グループのリソース定義 | failover1

情報 → 依存関係 → 復旧動作 → 詳細

既定の依存関係に従う

依存するリソース

名前	リソースタイプ
service_pgsql	サービスリソース

追加

削除

利用可能なリソース

名前
fip1
md1

戻る 次へ▶ キャンセル

依存するリソース

名前	リソースタイプ
fip1	フローティングIPリソース
md1	ミラーディスクリソース
service_pgsql	サービスリソース

追加

削除

利用可能なリソース

名前
利用可能なリソースはありません

●リポジトリDB無しの場合

[既定の依存関係に従う]がチェックされた状態を確認し、[次へ]をクリックします。

グループのリソース定義 | failover1

情報 → 依存関係 → 復旧動作 → 詳細

既定の依存関係に従う

依存するリソース

- AWS Elastic IPリソース
- AWSセカンダリIPリソース
- AWS仮想IPリソース
- CIFSリソース
- ディスクリソース
- ハイブリッドディスクリソース
- フローティングIPリソース
- ミラーディスクリソース
- レジストリ同期リソース
- 仮想IPリソース
- 仮想コンピュータ名リソース

戻る 次へ▶ キャンセル

6. [グループのリソース定義-復旧動作]画面が表示されます。
必要に応じて、復旧動作を設定し、[次へ]をクリックします。

グループのリソース定義 | failover1 service

情報 → 依存関係 → 復旧動作 → 詳細

活性異常検出時の復旧動作

活性リトライしきい値* 1 回

フェイルオーバー先サーバ 安定動作サーバ
 最高プライオリティサーバ

フェイルオーバーしきい値* 1 回

最終動作* 何もしない(次のリソースを活性化しない) ↓

最終動作前にスクリプトを実行する 設定

非活性異常検出時の復旧動作

非活性リトライしきい値* 0 回

最終動作* クラスタサービス停止とOSシャットダウン ↓

最終動作前にスクリプトを実行する 設定

戻る 次へ キャンセル

7. [グループのリソース定義-詳細]画面が表示されます。
DataSpiderServerのWindowsサービス名(DataSpider_Servista)を選択して、[完了]をクリックします。

グループのリソース定義 | failover1 service

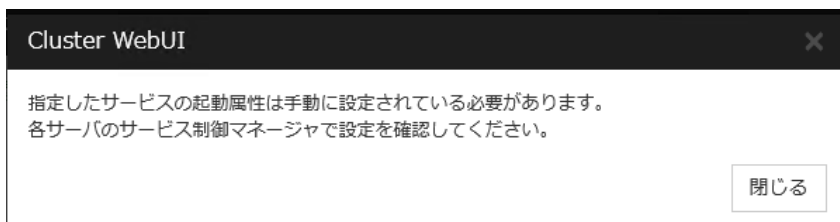
情報 → 依存関係 → 復旧動作 → 詳細

サービス名* DataSpider_Servista ↓ 接続

調整

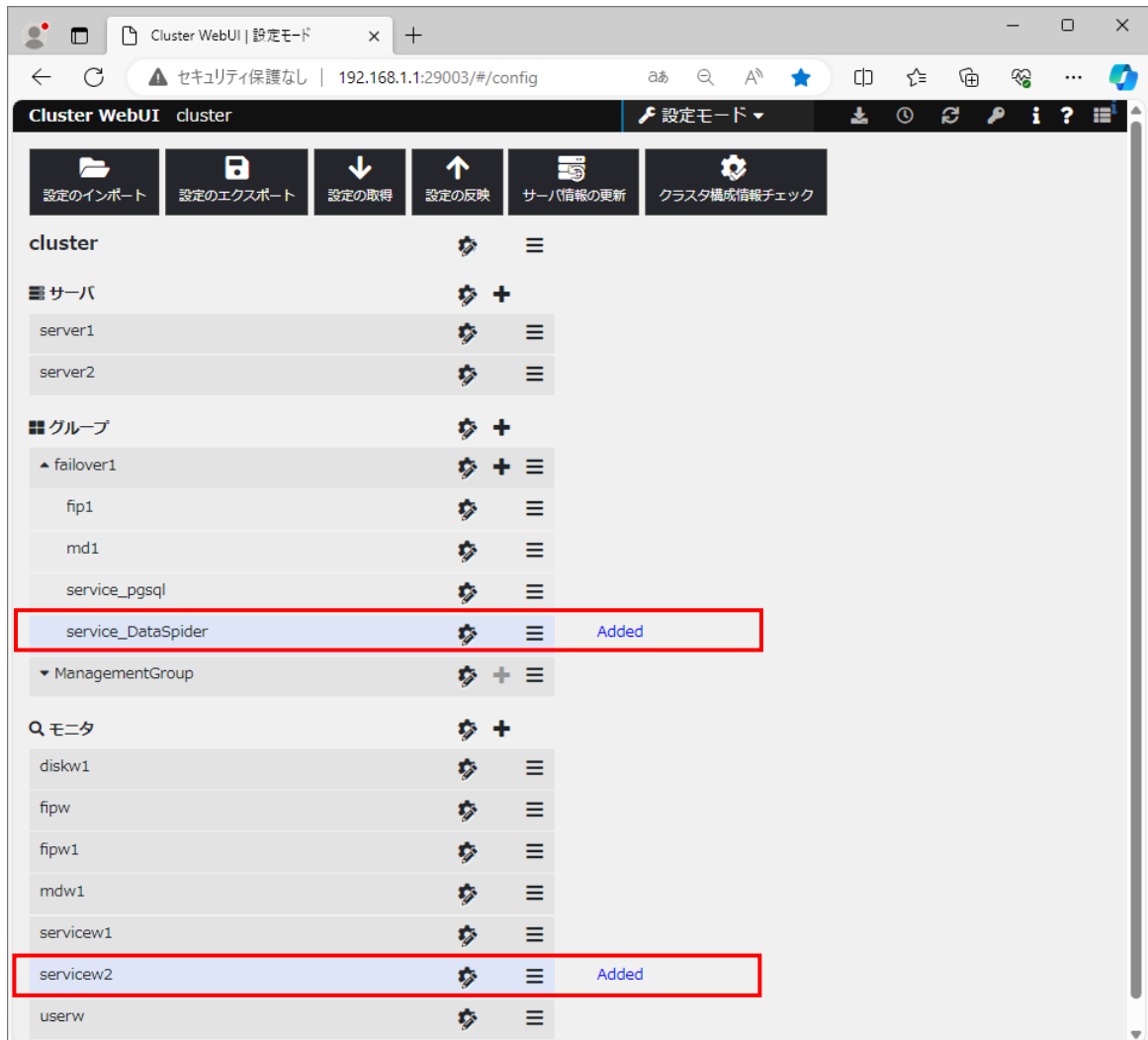
戻る 完了 キャンセル

8. 次のメッセージが表示されます。
[閉じる]をクリックします。



9. サービスリソースが追加されます。

サービスリソースが追加されると対応するサービスモニタリソースも自動的に追加されます。



10. 追加されたサービスモニタリソースのプロパティを開き、回復動作の設定を変更します。

[回復動作]:「最終動作のみ実行」、[回復対象]:「LocalServer」、[最終動作]:「クラスタサービス停止とOS再起動」を指定します。

モニタリソースのプロパティ | servicew2

情報 監視(共通) 監視(固有) 回復動作

回復動作 最終動作のみ実行

回復対象* LocalServer 参照

回復スクリプト実行回数 0 回

再活性化前にスクリプトを実行する

最大再活性化回数 0 回

フェイルオーバー実行前にスクリプトを実行する

フェイルオーバー先サーバ 安定動作サーバ 最高プライオリティサーバ

最大フェイルオーバー回数 0 回

最終動作前にスクリプトを実行する

最終動作 クラスタサービス停止とOS再起動

スクリプト設定

OK キャンセル 適用

死活確認用スクリプトの作成

DataSpider Servistaはデータ連携操作をスクリプトとして作成し、ScriptRunnerで実行することができます。

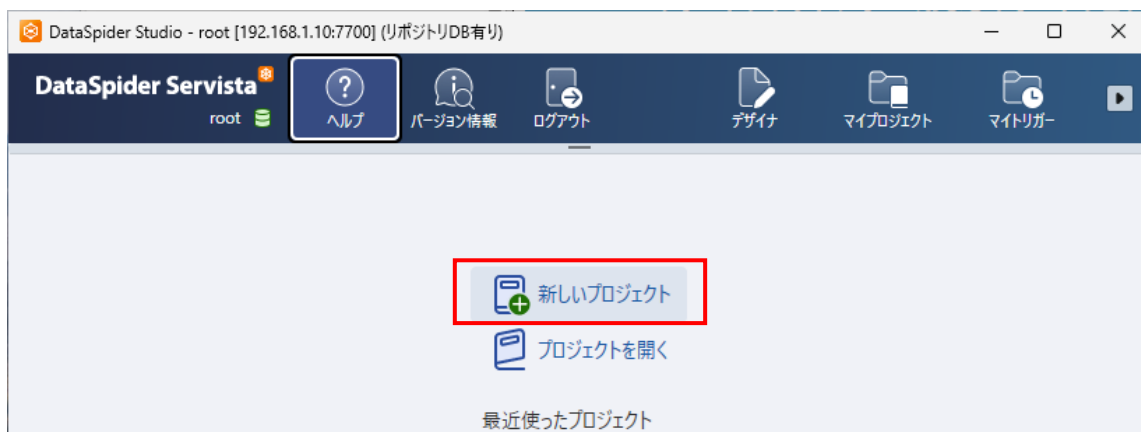
この機能を用いると、次のようなDataSpiderServerに関する状態確認を行うことができます。

- ・DataSpiderServerの起動状態
- ・DataSpiderServerへの接続可否
- ・DataSpider Servistaで作成・登録したスクリプトの実行可否

これを死活確認用スクリプトとしてCLUSTERPROのカスタムモニタリソースに登録し、DataSpiderServerの状態を監視することができます。

死活確認用スクリプトの作成は以下の手順で行ってください。

1. DataSpider Studioを起動します。
2. [新しいプロジェクト]を開きます。



3. プロジェクト名に任意の名称を入力し、[次へ]をクリックします。

プロジェクト名：(例)死活確認プロジェクト

新しいプロジェクト

プロジェクトの作成
マイプロジェクトにプロジェクトを作成します。

プロジェクト名

プロジェクトを共有する

テストプロジェクトを作成

スクリプトも作成

① プロジェクトとは？
プロジェクトとは、スクリプトを分類してまとめるものです。

① テストプロジェクトとは？
テストプロジェクトとは、プロジェクトをテストする専用の機能を持つものです。

① スクリプトとは？
スクリプトとは、データの抽出、変換等の処理を定義するものです。

< 戻る 次へ > 完了 取消し

4. スクリプト名に任意の名称を入力し、[完了]をクリックします。

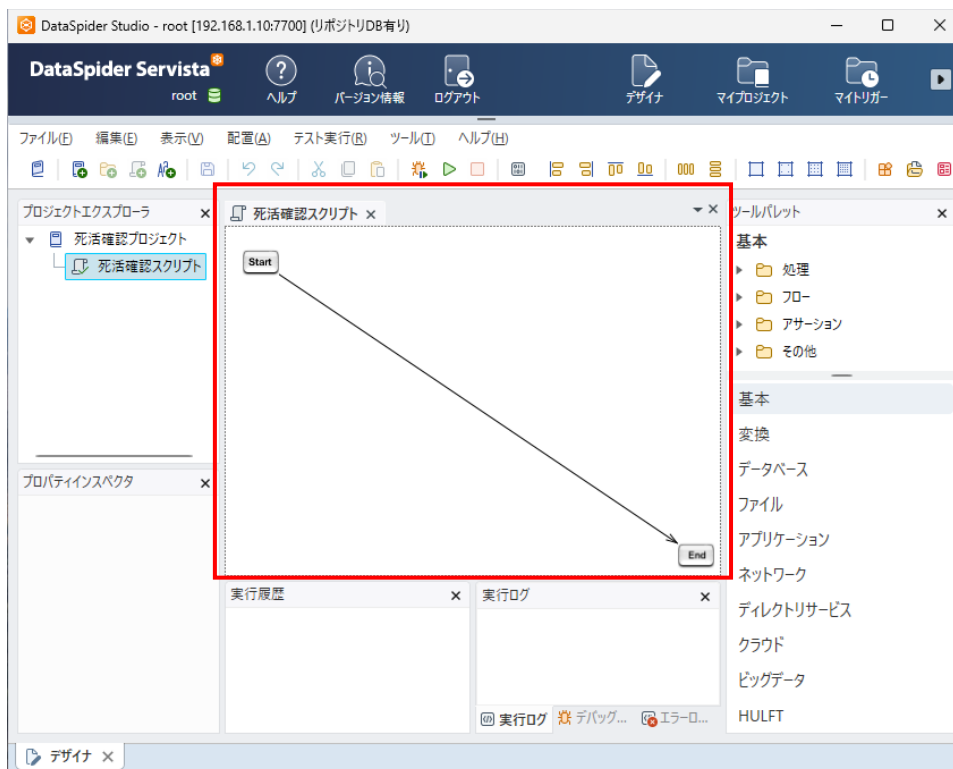
プロジェクト、スクリプトが作成されます。

スクリプト名: (例) 死活確認スクリプト

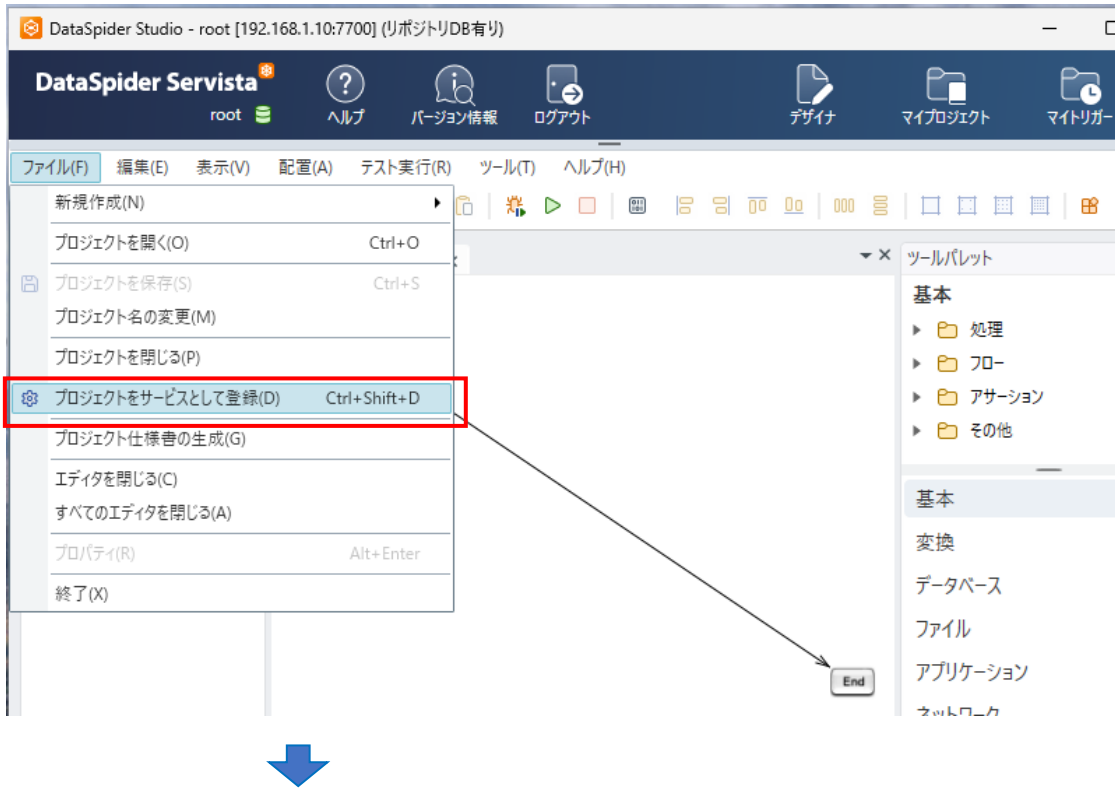


5. [デザイナ]ツールが表示されるので、スクリプトの処理内容を作成します。

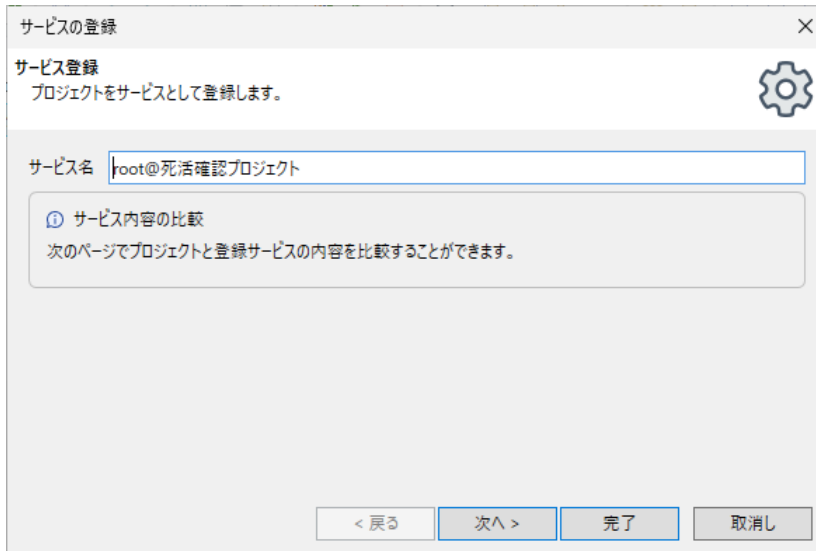
[Start]アイコンから[End]アイコンまでフローを引きます。



6. メニュー [ファイル] - [プロジェクトをサービスとして登録]を選択し、スクリプトをサービスに登録します。



サービス名: (例)root@死活確認プロジェクト



7. ScriptRunnerを設定します。

作成したスクリプトをCLUSTERPROから実行するためにScriptRunnerの起動設定ファイルを作成します。

ScriptRunnerは、Windowsのコマンドプロンプトから起動設定ファイルを引数として、起動設定ファイル内に記述されているスクリプトを実行します。

```
> ScriptRunner.exe test.xml  
例) 起動設定ファイル名 : test.xml
```

起動設定ファイル: test.xmlファイルの記載例を以下に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<scriptrunner>  
  <connection>  
    <host>localhost</host>  
    <port>7700</port>  
    <ssl>>false</ssl>  
    <description>ScriptRunnerから実行します。</description>  
    <user>root</user>  
    <password>XXXXXXXXXX</password>  
  </connection>  
  <params>  
    <param project="root@死活確認プロジェクト" script="死活確認スクリプト">  
      <option key="ENABLE_XML_LOG">>false</option>  
    </param>  
  </params>  
</scriptrunner>
```

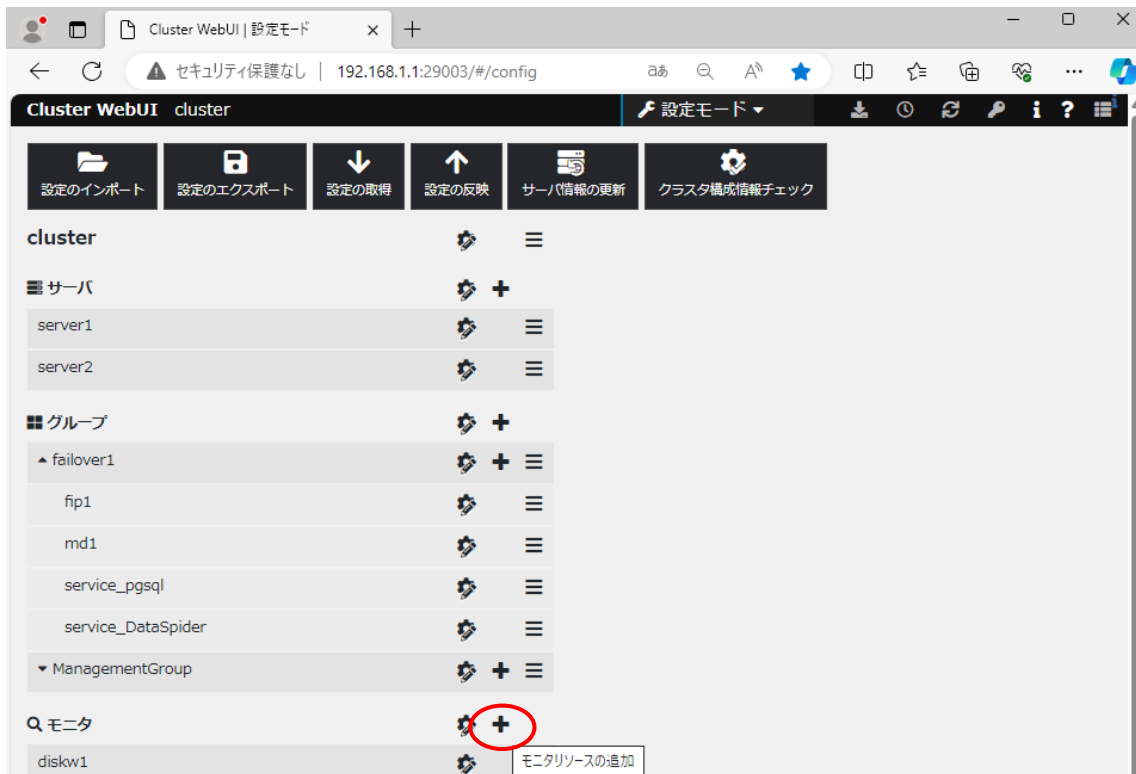
※ パスワード (XXXXXXXXXX) は、DataSpider Servistaのインストール時に設定したパスワードを記載します。

死活確認用スクリプトの登録

CLUSTERPROのカスタムモニタリソースに、前項で作成した死活確認用スクリプトを登録します。現用系で定期的にスクリプトを実行し、異常検出時にDataSpiderServerの再起動やフェイルオーバーが実施されるよう設定します。

死活確認用スクリプトの登録は次の手順で行ってください。

1. Cluster WebUIを起動します。
2. 設定モードに変更します。
3. モニタの右にある[+]マークをクリックします。



4. [モニタリソース定義-情報]画面が表示されます。

[タイプ]: 「カスタムモニタ」を選択、[名前]: 任意のモニタリソース名(例: dataspiderw)を入力、[次へ]をクリックします。



5. [モニタリソース定義-監視(共通)]画面が表示されます。

[監視タイミング]:「活性時」、[対象リソース]:「サービスリソースの設定」の項で登録したサービスリソース名(例: service_DataSpider)を指定します。

また、[監視開始待ち時間]には、DataSpiderServerを起動してから実際に動作を始めるまでの時間を入力します(本検証では120秒に設定)。

監視開始待ち時間の設定については、後述の「注意事項」の章を参照してください。

その他の値は、必要に応じて適宜設定し、[次へ]をクリックします。

モニタリソースの定義 genw

情報 → 監視(共通) → 監視(固有) → 回復動作

インターバル* 60 秒

タイムアウト* 120 秒

タイムアウト発生時にリトライしない

タイムアウト発生時動作 回復動作を実行する

リトライ回数* 1 回

監視開始待ち時間* 120 秒

監視タイミング

常時

活性時

対象リソース* service_DataSpider 参照

監視を行うサーバを選択する サーバ

監視処理時間メトリクスを送信する

戻る 次へ キャンセル

6. [モニタリソース定義-監視(固有)]画面が表示されます。

デフォルト値(「この製品で作成したスクリプト」、[スクリプトの種類]:バッチファイル、[監視タイプ]:同期、[正常な戻り値]:0)を設定します。[編集]をクリックし、genw.batを編集します。

モニタリソースの定義 genw

情報 → 監視(共通) → 監視(固有) → 回復動作

ユーザアプリケーション

この製品で作成したスクリプト

スクリプトの種類

バッチファイル

PowerShell

ファイル genw.bat 編集 表示 置換

監視タイプ

同期

非同期

正常な戻り値* 0

警告戻り値

終了時アプリケーションを強制終了する

クラスタ停止時に活性時監視の停止を待ち合わせる

実行ユーザ

戻る 次へ キャンセル

7. genw.batの編集画面が表示されます。

genw.batには次のスクリプトを登録します。

下線の箇所については、DataSpider Servistaのインストール先、起動設定ファイルの配置先、起動設定ファイル名に応じて適宜変更してください。

(例) インストール先: F:\ProgramFiles\DataSpiderServista
起動設定ファイルの配置先: F:\ProgramFiles\DataSpiderServista\server\bin
起動設定ファイル名: test.xml

起動設定ファイルについては、前述の「死活確認用スクリプトの作成 - 7. ScriptRunnerを設定します」を参照してください。

※ genw.batに登録するスクリプト内のScriptRunnerのコマンドラインは一行で記載してください。

```
rem *****
rem * genw.bat *
rem *****
echo START

"F:\ProgramFiles\DataSpiderServista\server\bin\ScriptRunner.exe"
"F:\ProgramFiles\DataSpiderServista\server\bin\test.xml" > nul 2>&1

exit /b %errorlevel%
```

入力が完了したら、[OK]をクリックします。

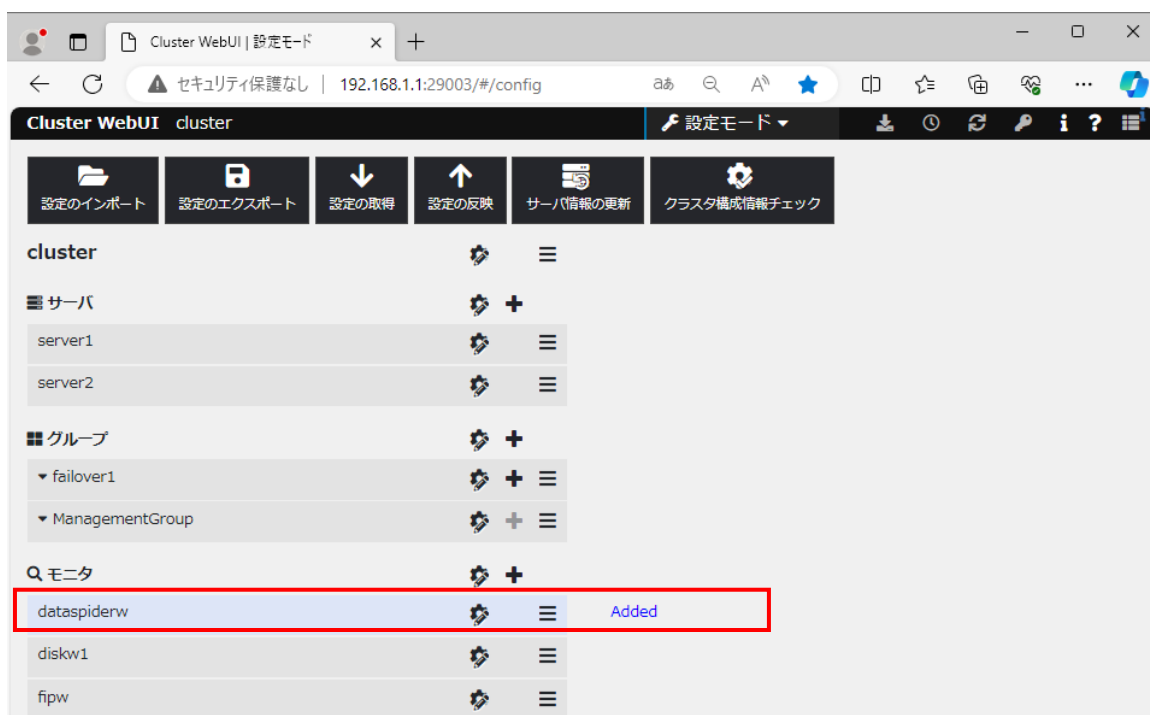


8. [モニタリソース定義-回復動作]画面が表示されます。

[回復動作]:「最終動作のみ実行」、[回復対象]:「LocalServer」を指定します。[最終動作]:「クラスタサービス停止とOS再起動」を指定して、[完了]をクリックします。

The screenshot shows the 'Monitoring Resource Definition' (モニタリソースの定義) configuration page. The breadcrumb navigation is: 情報 → 監視(共通) → 監視(固有) → 回復動作. The 'Recovery Action' (回復動作) dropdown is set to '最終動作のみ実行'. The 'Recovery Target' (回復対象) is set to 'LocalServer'. The 'Final Action' (最終動作) dropdown is set to 'クラスタサービス停止とOS再起動'. There are also input fields for 'Recovery script execution count' (回復スクリプト実行回数) and 'Maximum recovery count' (最大再活性回数), both set to 0. A 'Script Settings' (スクリプト設定) button is visible at the bottom right. Navigation buttons include 'Back' (戻る), 'Complete' (完了), and 'Cancel' (キャンセル).

9. カスタムモニタリソースが追加されます。



注意事項

- ・ リポジトリDB有りのクラスタを構築する場合は、DataSpiderServerとリポジトリDBを次の順序で起動・停止するように、グループリソースの依存関係を設定してください。グループリソースの依存関係の設定については、CLUSTERPROのリファレンスガイドを参照してください。
 - (1) 起動時の順序
 - ① リポジトリDBを起動する
 - ② DataSpiderServerを起動する
 - (2) 停止時の順序
 - ① DataSpiderServerを停止する
 - ② リポジトリDBを停止する
- ・ DataSpiderServerの起動処理を開始した直後など、起動処理が完了していない場合は死活監視で異常が検出されます。
DataSpiderServerの起動処理が完了した後に死活確認が開始されるように、カスタムモニタリソースの[監視開始待ち時間]の設定を環境に応じて調整してください(詳細は「死活確認用スクリプトの登録」の項を参照)。